くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2017年9月1日
(No.87)

2017＊9月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://kappa-no.net/eco-shiki/

写真：天田 眞

志木につらなる川の風景（15）

北川（柳瀬川支流）

柳瀬川の源流は狭山湖堰堤の下。一方、多摩湖の下から始まるのが北川。両者は西武新宿線と交差する地点で合流します。北川は東村山市が管理する河川で、延長 3.3km。合流点から上流へ向かうと、落ち着いた住宅地の中を流れ、川幅は狭く、両岸は急勾配のコンクリートブロック積みで、川には下りられません。しかし、覗き込むと水はきれいで、河床には草が多く、ゴミは目立たず、自然な感じです。傍らには並木が連なる遊歩道もあります。写真の少し上流の北山公園内を流れる北川の一部は、市民の提案により、片側のコンクリート護岸をはがし、緩い勾配の自然の水際に改修されています。　（天田 眞）

身近な川の一斉調査 2017

新河岸川水系身近な川の一斉調査
身近な水環境の全国一斉調査

身近な川の一斉調査（2017）に参加して

当日は午前9：00に志木市役所に集合し調査開始となりました。志木中学校科学部の皆さん20名とスタッフ6名が4班に分かれて市内7ヶ所（いろは橋・栄橋・こもれびのこみち・宮戸橋・赤野毛排水路・志木大橋・秋ヶ瀬取水堰）の水を採取しました。私の班は秋ヶ瀬取水堰で生徒4名と調査しました。現場は釣り人が多く、バケツを投げて採水するのは憚れましたが“身近な川の全国一斉調査”の一環としての事情を説明したところ、快く場所を空けて協力をしてくれました。現場での作業は気温・水温・採水（共洗い）・臭気・周辺のゴミ・環境等のチェックですが、水を汲む際に護岸の斜面を下りるので少々危険があります。

採水が済んだら志木中の理科室に集合し測定作業です。おもにパックテストで水素イオン濃度（PH）、化学的酸素消費量（COD）、亜硝酸性チッソ（NO2－N）、アンモニア性チッソ（NH4－N）等を測定します。透視度はクリーンメジャーで測定します。生徒はみんな真剣に作業をしていました。測定値は黒板に一覧に書き出します。

結果、透視度では柳瀬川が良く、見た目きれいな水ですが、新河岸川、荒川の方が水質はいいとなります。この傾向は例年と同じですが、少しでも水質改善が進めばと思います。（松田勝正）

［写真：青木明雄］

2017年度の測定結果と考察　6月11日（日）午前実施　（天田　眞）

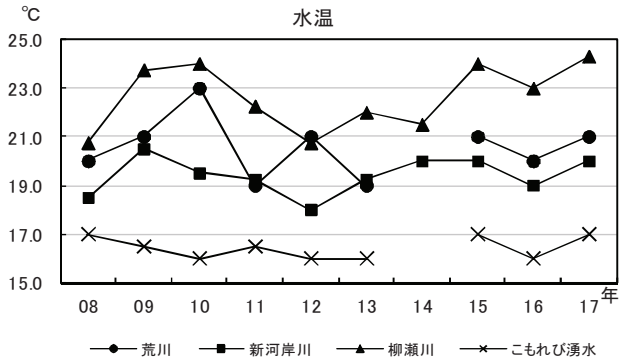
● **参加者数：**26名（志木中生徒19、教師1名含む）
● **調査地点**：採水地点7か所
新河岸川：いろは橋・宮戸橋
柳瀬川：志木大橋・栄橋
荒川：秋ヶ瀬取水堰（上流側取水口前）
いろは親水公園こもれびのこみち湧水
赤野毛排水路：宗岡二中前の樋管上流側
● **測定項目**
気温・水温
pH（水素イオン濃度）：7が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。
EC（電気伝導度）：水中の無機イオンの量を電気的に測定する。不純物が多いと数値が高い。
COD（化学的酸素消費量）：酸化剤で有機物を酸化した時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物が多い。
NH_4-N（アンモニア性窒素）・NO_2-N（亜硝酸性窒素）：生活排水・肥料・腐敗物等の窒素を含んだ汚染源がアンモニアになり、これが水中のバクテリアにより酸化され亜硝酸となり、さらに酸化されると硝酸になる。
透視度：透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えなくなるまでの深さ。数人で測定し平均値を求める。
※今まで新河岸川袋橋でも測定してきましたが、いろは橋との間隔が近く、過去の結果もいろは橋と殆ど変らないため、今年は中止しました。また、統一実施日は6月4日でしたが、都合により11日に実施しました。

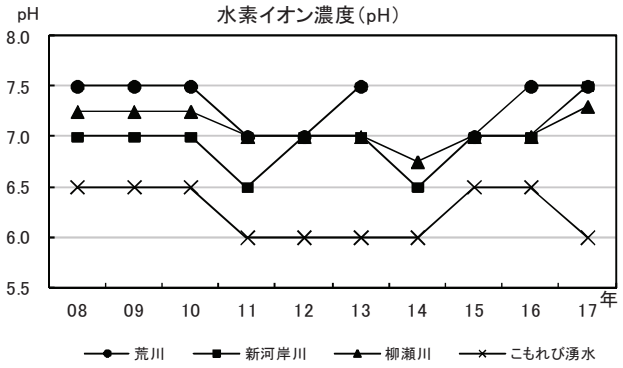
■ 2017年の測定結果と過去5年間（2013～2017）の平均値

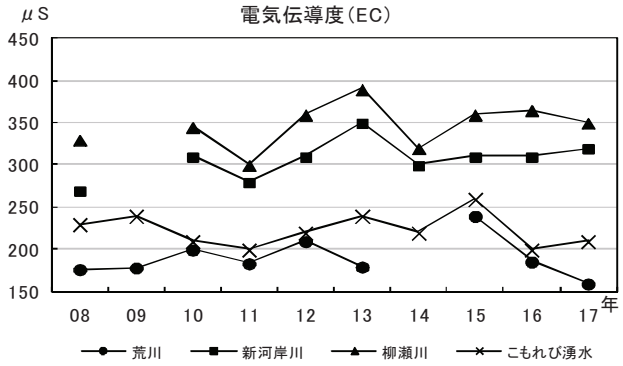
測定項目 / 採水地点		水温 ℃		pH		EC μS/cm		COD mgO/L		NH_4-N mg/L		NO_2-N mg/L		透視度 cm	
		17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均
柳瀬川	志木大橋	24.0	23.0	7.0	7.0	350	357	8	7.0	2.0	0.9	0.5	0.24	76	104
	栄橋	24.5		7.5		350		8		1.0		0.5		74	
新河岸川　いろは橋		20.0	19.7	7.5	7.0	320	318	4	4.0	0.5	0.6	0.05	0.06	51	55
新河岸川 宮戸橋		22.0	22.0	7.5	7.0	330	334	6	5.6	0.5	0.6	0.5	0.25	69	73
荒川秋ヶ瀬取水堰		21.0	20.3	7.5	7.4	160	192	4	3.5	0.5	0.4	0.02	0.03	57	51
こもれびのこみち湧水		17.0	16.8	6.0	6.2	210	226	0	0.0	0.0	0.1	0.005	0.004	122	122
赤野毛排水路		23.5	22.4	9.5	8.8	330	360	8	7.5	2.0	0.8	0.05	0.04	44	62

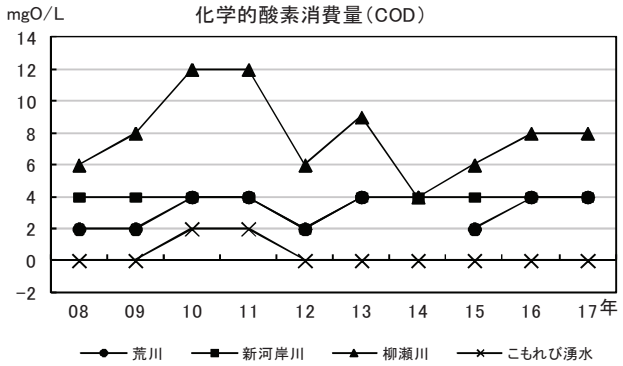
※ 各測定項目の左欄に2017年の値、右欄に過去5年間（2013～2017年）の平均値を記入。柳瀬川は志木大橋・栄橋の平均とした。

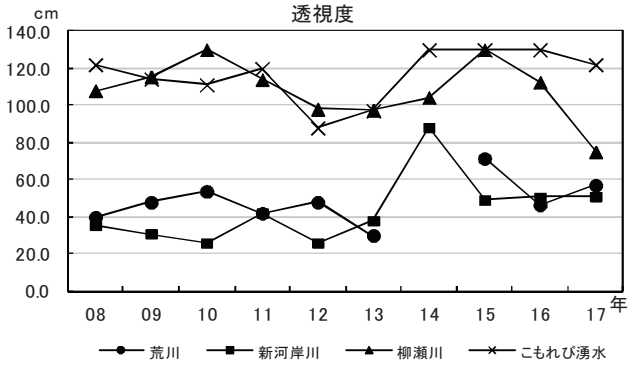
■ 2008 年～17 年　主な測定項目の経年変化　柳瀬川は志木大橋と栄橋の平均値









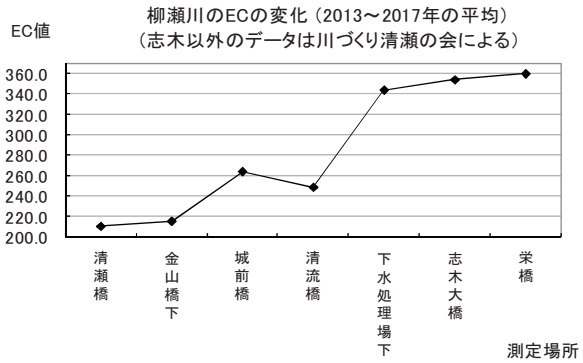


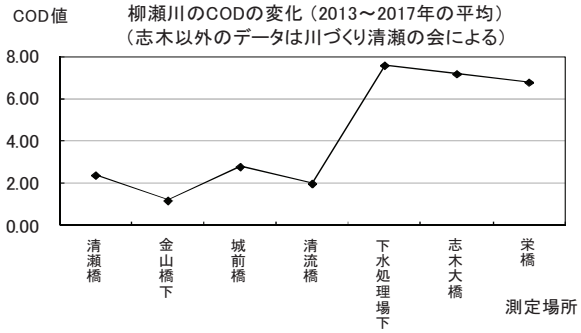
● 主な測定項目の傾向

水温：柳瀬川は高く、こもれび湧水は低い
pH：荒川は弱アルカリ性、こもれび湧水は弱酸性
EC：高い方から柳瀬川→新河岸川→湧水→荒川
COD：柳瀬川は高く、湧水は低い
透視度：柳瀬川と湧水は高く、荒川と新河岸川は低い

● 柳瀬川の流下に伴う、清瀬地域からの変化

EC・COD ともに、清瀬水再生センター（下水処理場）の放流水が入ると大きく上昇する





■ 結果から見る河川・調査地点の水質の傾向：各地点とも例年と大きな違いは無い。
柳瀬川【志木大橋・栄橋】：透視度が高く、きれいな印象。EC・COD・チッソ分とも高く、見かけほど水質は良くない。
新河岸川上流【いろは橋】：透視度が低く、汚れた印象。EC・ COD は柳瀬川より低く、水質は見かけほど悪くない。
新河岸川下流【宮戸橋】：概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の中間の数値を示す。
荒川【秋ヶ瀬取水堰】：EC は最低、COD・チッソ分も低く、志木の河川としては良好な水質。
こもれびのこみち湧水：透視度は最高、COD・チッソ分は最低で非常に良好な水質。EC が高いのは湧水の特徴。
赤野毛排水路：pH・EC・COD・アンモニアが高く、水質は悪い。年により数値のばらつきが多い。

7月19日（水）柳瀬川の外来植物の駆除

志木中の生徒さんによる外来植物の駆除

7月19日に梅雨明けの厳しい暑さの中、150名もの多数の志木中の生徒さんがクラブ活動の時間を割いて参加してくれました。

場所は志木中の前の柳瀬川の土手斜面の上流・下流200mに亘って展開されました。

対象はオオブタクサとアレチウリですが今年はまだ小さいながら、ものすごくたくさん発芽してきています。1か月もすれば土手全体が大きくなったオオブタクサに覆われアレチウリが繁茂し在来の植物を駆逐することと思われます。

さて、駆除作戦は3班に分かれて全面抜き取りです。オオブタクサもアレチウリも知らない生徒が結構いました。オオブタクサもアレチウリもまだ小さいので抜き取りは容易で頭数に任せたローラー作戦により1時間程で終了しました。みんな元気に頑張ってくれました。本当にご苦労様でした。また有難うございました。

［写真：青木明雄］

今回駆除したところとしなかったところを数か月後に比較してみたいものです。相当な駆除効果が判ると思います。

（松田勝正）

侵略的外来生物県民参加モニタリング調査に参加して

東西・南北各1kmの三次メッシュ単位で行なう外来種の調査に、6月12日（幸町1丁目全域、2～4丁目の一部）、7月8日（志木市民体育館周辺から新座市との市境周辺）、8月22日（富士見市性蓮寺周辺）に参加しました。

対象外来種植物のリストとカラーコピーを手に、環境（河川敷、市街地等）、生活段階（葉、つぼみ、花、実等）、株数又は面積を表す英数字でマークしながら、アメリカオニアザミ、セイタカアワダチソウやマメグンバイナズナ等、大小の植物を調査。ユーモラスな名のワルナスビ、ヤセウツボ等初めて認識した植物も多かったのですが、可憐な花のオオイヌノフグリ、ユウゲショウ、ヒメジョオン、身近なオオキンケイギク、ハルシャギクが対象だったのは意外でした。

道々、細密な模様のビロードハマキに出会い、ヤハズソウ、ハンテンボク、リョウブの名の由来や、ヤブガラシの時間差開花についてお話を伺える贅沢な時間でした。野火止用水跡を通ったり、

［写真：青木明雄］

体育館下の調整池を覗いたり、生物の実態調査でありながらワンダーランドを抜けてきたような不思議な満足感を味わいました。

（庭野恵子）

カヤネズミ原っぱの外来植物駆除活動

いろは親水公園の富士下橋下流にはヨシやオギの生える原っぱがあります。　宗岡地区でも宅地化が進むなかで、かつての湿地的な景観の残る貴重な場所となっています。またここにはカヤネズミ（埼玉県準絶滅危惧種）の巣も見つかっています。そこで私たちはここをカヤネズミ原っぱと呼んで、貴重なヨシ・オギ群落が維維されるように環境保全活動を行っています。

８月６日は今年度４回目の活動で、志木市社会福祉協議会の吉田様とボランティア活動に参加された６名の方々とご一緒にオオブタクサの抜き取り作業を行いました。

この時期オオブタクサは優に背丈を超え 2m 以上にもなります。午後３時、富士下橋袂の四阿に集合し、作業の要領や自己紹介などを行い、原っぱの中ほどのオオブタクサの目立つ場所で抜取りにかかりました。幸いカンカン照りではありませんでしたが汗びっしょり。ダイエットには効果抜群などと冗談もでましたが、熱中症に注意し休憩と水分補給しながら、およそ１時間半ほどの作業でした。

［写真：天田　眞］

全体から見れば一部ですが、オオブタクサの見えなくなったところを堤防上から確認すると達成感があります。皆さんお疲れさまでした。オオブタクサはこれから結実となって翌年生えることの繰返しですが、地道に抜取作業を継続し、貴重なヨシ・オギ群落の維維に努めて行きたいと思います。　（鈴木民雄）

７月 17 日（月・海の日）放課後子ども教室「志木りんくす」柳瀬川水族館（44 名　当会３名）
７月 29 日（土）三芳町「竹の子エコクラブ」柳瀬川へ行こう（参加者 59 名　当会３名）

夏休み行事に今年も当会が協力しました

志木四小内もくせい館を拠点として活動している「志木りんくす」と、三芳町「竹の子エコクラブ」の夏休み行事に、今年も当会が協力しました。

両方とも、柳瀬川・志木中前右岸の所で、２、３日前の雨の影響で少し川が増水していましたが、魚などがたくさん捕れました。捕れた魚などは水槽に入れ、また、参加者によく見てもらうために小さめの透明な容器に入れ、天田代表の説明を聞き、観察をしました。

ギンブナやヌマチチブ・モツゴ・ウキゴリ・シマドジョウ・スジエビ・カワリヌマエビ、そしてハグロトンボやコオニヤンマ・シオカラトンボのヤゴ等が捕れました。いつもよく捕れるテナガエビは今回は捕れませんでした。

私は、天田代表・青木理事について行けない子どもたちや保護者に、手網に足で魚を追い込む方法を教えながら、魚が捕れない子がいないように気をつけていました。

「竹の子エコクラブ」では、富士見橋付近の砂州がある所で、川の石の裏のトビケラの幼虫やシロタマガワカゲロウ等の川虫を採集し、また、あまり捕れないギギも捕れました。　（山口美智江）

袋橋から羽根倉橋まで北側の自然散策

NPO法人エコシティ志木事務局長　青木　明雄

佃堤

袋橋から、袋橋通り・蓮田通りと進んで行くと、羽根倉橋のところで浦和所沢バイパスにぶつかります。今回は、この道路の北側の志木市内を散策します。

千光寺の裏から大仙寺に通じる道がありますが、昔は、新河岸川を渡り、柳瀬川の南側を走る道へとつながっていた旧鎌倉街道です。かつては、大仙寺のところからは、蓮田通りの先で荒川の土手を突き抜けて堤外の道に繋がっていました。土手の上から見ると、よくわかります。大仙寺手前には、まだ広い田んぼが残っていますが、この道も、和光富士見バイパスができると、千光寺に近いところで、大きく分断されることになり、緑の空間も減り、大分様子が変わる事でしょう。千光寺裏の旧堤防を進んでいくと佃堤の案内板があります。この先の柳瀬川に沿った堤防は、木曽目堤と言います。ここから佃堤は、新河岸川と直角的に堤内を仕切るような形に出来ています。この堤防は、旧南畑村と宗岡村の間に作られ、旧宗岡村を水害から守るために取り囲んでいる総囲堤の一部となっています。佃堤は300m程が残っています。この堤の東側（志木市）のほとんどは、土手の高さ近くまで盛り土され、住宅や倉庫などの建物が多く、緑も少なくなっています。西側（富士見市）は、あまり盛り土されておらず、田畑に使われ、緑が多く、土手の高さもかなり高く感じます。農家の庭木も多く、緑が多い広々した空間が残っています。

田んぼの向こうには、とっても小さな稲荷神社の赤い祠が見えます。この祠に向けて、志木市側から1本の小さな道が田んぼの中を真っすぐ伸びており、堤の上のフューム管も通りやすいように壊され、堤も削られていました。佃堤は、300m程先の農家まで続き、その先は、残っていませんが、農地としての緑地があります。志木市の境界線は、この佃堤とその延長線として、浦和所沢バイパスを超えた先まで真っすぐに伸びています。水塚のある農家の隣に浦和所沢バ

富士見市近くの田んぼ

歩道橋から見た散歩道

ぶらり散歩マップから

浅間神社

イパスを潜る道があります。ここを通って出たところには、田んぼがあり、上宗岡２丁目交差点の先まで広がっています。かなり広い田んぼです。

この道を真っすぐ行くと荒川の土手にぶつかります。この道路と荒川の土手に囲まれた部分が志木市です。浦和所沢バイパスの北側が、上宗岡３丁目になります。田んぼも大分減ってしまい、新しい住宅が増えています。富士見市との境となるところには、まだ農家があり、広い田んぼが残っています。また、上宗岡３丁目の中程には、宗岡第二小学校があります。春には、さくらがきれいです。上宗岡３丁目は、工場や倉庫などの他は、商店もなく、ほとんどが住宅となっていて、空き地がほとんどありません。そんな中で、宗岡第二小学校の隣に、羽根倉児童公園があります。幅15m、長さ50m程度の広さの公園ですが、この地域の広場としては貴重な公園です。この公園の脇の道から、浦和所沢バイパスの上を渡る歩道橋があります。この歩道橋を渡って浦和所沢バイパスの南側に行くと、歩道のところどころにベンチがおいてある散歩道のような道が続きます。そして、蓮田通りから先のせせらぎの小径に繋がっています。今の歩道橋は、人が渡るためだけに作られたものですが、この歩道橋を幅広くして、折り返し階段をなくし、スロープの緩やかなものに作り替えて、あたかも普通の坂道の様にしたら、親水公園から羽根倉児童公園まで、約2.3kmの長いこみちができ、ウォーキングなどで楽しめるものになりそうです。

浦和所沢バイパスの幅もかなりあるので、単なる歩道橋ではなく、テラスの様にして、緑の空間を作るのもいいかもしれません。残念ながら、羽根倉児童公園からせせらぎの小径までの道は、せせらぎの小径より狭く、水路もありませんが、ベンチの脇には植え込みがあり、道路脇の民家の木々も多く、緑も楽しめるなかなかいいこみちだと思います。

歩道橋を渡って、100m程このこみちを行くと池の内牧場の牛舎の裏になります。この池の内牧場は、乳牛の牧場ですが、市内では唯一の牧場となりました。この通りの一本西側の道には、牛が放牧される場所があり、時々、牛の姿を見ることができます。この放牧地辺りは、建物が密集していないため、見た目も広い空間が残っています。ここから、東側にあたる、荒川土手下を走る羽根倉通りまでの間には、工場も多く、緑の区間はほとんどありません。羽根倉通りは、浦和所沢バイパスを潜り宗岡第２小学校前を通り上宗岡２丁目交差点からの道にぶつかります。上宗岡３丁目の真ん中を走っている道路です。羽根倉通りに面したところに、浅間神社があり、この神社には、羽根倉富士嶽があります。

荒川の土手と浦和所沢バイパスに囲まれたところですが、境内には、木々もあり、セミの鳴き声も聞こえてきました。この神社の隣も工場になっていますが、この並びには、大きな敷地の家もあり、庭の木々が、この辺りの緑の豊かさにも役立っていました。

はねくら児童公園

柳瀬川水族館を再開しました

もう 10 年以上前ですが、春から秋に月 1 回のペースで、志木中学校前の土手に水槽を並べ『柳瀬川水族館』と名付けて、柳瀬川で捕った魚などを展示し、通行人に見てもらっていた時期がありました。柳瀬川にどんな生きものがいるかご存知の方は少なく、大変好評でした。柳瀬川の定期的な水生生物調査を拡大したものですが、人手も必要で、4 ～ 5 年は続けたものの、その後は定期的な展示を止め、調査だけになりました。

今年度、今までの生物調査の体制を再検討した結果、夏季を中心に回数は限られますが、柳瀬川の水生生物調査と水族館を再開することになり、既に 6 月と 8 月に実施しました。(7 月にも、別に報告のある、子どもたちの魚捕り企画で展示をやっています。)

この企画の目的は、柳瀬川に多くの生き物が生息するのを知ってもらい、自然への関心と、川の環境を守る気持ちをもってもらうことですが、当

[写真：青木明雄]

会の活動を知ってもらう PR の効果もあります。また、展示開始の前 30 分間には、河川敷のゴミ拾いも行なっています。

8 月 20 日は前日が大雨で心配しましたが、水位は平常に戻り、多くの魚を展示できました。天候のためか散歩の人が少なめだったのが残念でした。

(天田 眞)

いろは親水公園の生き物調査

7 月 16 日（日）に市内生き物調査を「いろは親水公園」で行いました。

このイベントでは、一方的に生き物や環境を紹介していくという形ではなく、参加者が見つけた生き物の名前を、生き物博士に聞いて調べていくという企画で行いました。生き物博士は、樹木・昆虫担当の天田さんと野草（草本）担当の田村さんにお願いしました。

暑いので、出来るだけ木陰を歩くルートとしました。旧村山快哉堂前に集合し、先ずは、中洲ゾーンを調査しました。新河岸川と柳瀬川の合流点付近のコサギなどの観察もできました。左岸ゾーンでは、さくらのこみちを歩いていきました。

今回は、興味のある生き物を見つけるたびに、数人で観察していくため、どうしてもバラバラになり、全体としては、まとまりのない行動になりがちです。聞く方からすると、知りたい生き物について、観察しながら詳しく聞くことができるので、かなり満足していたようです。

この後、カヤネズミ原っぱを回り、富士下橋を渡り、こもれびのこみちの遊歩道を通り抜け、敷島神社裏を通り、住宅地のところで、土手に戻ってくるという形で斜面林を一周してきました。

(青木明雄)

●志木 自然インフォメーション●

生き物情報は→　ファクス 048-471-4275　e-mail：qwj11624 @ nifty.com（毛利）へ
ホームページ「発見 !! 街の自然」http://kappa-no.net/sizen-info.html

❶ **オオミズアオ**(1) →5月 22日(月) 自宅のレモンにいました[庭野恵子]
② **アオダイショウ**(1) →6月 15日(木) 上宗岡 1丁目宗岡団地[天田いづみ]
❸ **アオダイショウ**(1) →6月 17日(土) いろは親水公園カヤ原で作業中[天田眞]
④ **アオダイショウ**(1) →6月 29日(木) 志木中前柳瀬川を泳いで(志木小エコクラブ活動中)[天田眞]
⑤ **タマムシ**(1) → 7月 2日(日) いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」わきのコナラから飛び立った[青木明雄]
❻ **カブトムシ**(1) → 7月 9日(日) 西原ふれあい第三公園の手入れ中[発見者 :竹野延枝 写真 :青木明雄]
⑦ **ヒバカリ**(1) →7月 19日(水) 志木中前柳瀬川高水敷(志木中生徒オオブタクサ駆除作業中)[天田眞]
⑧ **キツネノカミソリ**(開花) →7月 23日(日) こもれびのこみちの湧水[青木明雄]
❾ **シロマダラ**(1) →7月 29日(日) 下ノ氷川神社のちかくで干からびて[毛利将範]
❿ **アカボシゴマダラ**(1) →8月 20日(日) 柳瀬川水族館で[青木明雄]
⓫ **ヒバカリ**(1) →8月 27日(日) 柏町 5丁目路上で自転車 ?に轢かれて[天田いづみ]

❶ オオミズアオ［庭野恵子］

❸ アオダイショウ［天田眞］

❻ カブトムシ［青木明雄］

❾ シロマダラ［毛利将範］

❿ アカボシゴマダラ［青木明雄］

環境 ひとくちメモ（45）　伊藤 智明

「道路冠水注意箇所（アンダーパス部）等」

最近、局地的に短時間で数十ミリの雨をもたらす局地的な大雨が多発していますが、このような局地的な大雨時には、道路や鉄道の下を通過するなどと立体的に交差する下側の道路（アンダーパス構造の道路）へ、急激に雨水が集まるため、道路が冠水する恐れがあります。

冠水による被害を未然に防げるよう注意喚起、標識類の設置などの対策も行われていますが、側溝やマンホールの蓋が外れているなどの危険な状況も予想されますので、道路が冠水している箇所では、自動車で移動される方だけでなく、歩行者や自転車・バイクも十分注意が必要です。

また、道路冠水注意箇所（アンダーパス部）以外の箇所でも、地形により路面の高さが前後と比べ低くなっている箇所（くぼ地）では、雨水が集まりやすく道路が冠水する恐れがあります。

そのため、日頃から身近な地形（高低差）などを意識しておくと、いざという時に役立ちます。

地下道手前の標識

国道 298 号の冠水状況（平成 23 年当時）

出典：環国土交通省関東地方整備局 記者発表資料 平成 29 年 6 月 6 日
「埼玉県内の道路冠水注意箇所（アンダーパス部）は 243 箇所 ～道路冠水時の無理な通行はお止め下さい～」
http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/oomiya_00000290.html

☆会員状況

2017 年度更新済み（8 月 27 日現在）
正会員（個人） 42
正会員（団体） 2
賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★ 2017 年度の継続更新をよろしくお願いします。

■当会の団体正会員
志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員
慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体
志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティ協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
彩の国南西部地域ＮＰＯ連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市放課後子ども教室りんくす
志木市立教育サポートセンター
市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

ＮＰＯ法人エコシティ志木
http://kappa-no.net/eco-shiki/

志木まるごと博物館河童のつづら
http://kappa-no.net/

〈『いきもの図鑑』作業状況〉

初校版の一部ができました

ＢチームとＣチーム担当の初校版ができました。志木の自然環境、野草、シダ、チョウ、トンボ、哺乳類、鳥類、魚類、甲殻類、水辺の生き物、用語解説等が、実際の印刷イメージの形でできてきました。こうして印刷イメージのものができてくると、早く完成させたいと思う反面、出来るだけいいものにしたいという気持ちを強くします。

これまでしっかり全体でレビューして対応してきた成果がよく出ていると思います。野草の写真についても花中心の写真から、普通に散策していて見かける姿をできるだけ載せて、名前を調べやすくしました。とても良かったと思います。

これをプロジェクトメンバー全員に配布し、内容をしっかり見ていこうと思います。表現の統一、重複感や不足感、追加したい種や過剰なもの、纏めた方がいいものや別のページに分けた方がいいもの等、気が付くことが出てくると思います。本来は、全部の内容が固まってから、初校版作成となるのですが、今回は、全体の掲載順序とページ割付けを行い、レビューが済んだものだけを先に行いました。とても手間のかかる作業を毛利さんにお願いしています。　（青木明雄）

志木の昆虫記32

街で出会える楽しい虫たち

天田 眞

《カミキリムシ》

カミキリムシの仲間は日本に 800 種いるそうですが、全て植物食です。多くのカミキリムシは樹木の樹皮をかじって傷つけた所に産卵し、幼虫は細長い筒型で通常の脚は無く、樹木の中をかじりながらトンネルを掘り続けます。幼虫の期間は種類によりますが、数か月～数年にわたります。トンネル内で蛹になり、更に成虫に羽化してから（場合によってはそのまま越冬し）、幹の側面に丸い穴をあけて出てきます。

生きている樹木につく種と枯木につく種がいて、また、草本類につく種もいます。生木の内部がトンネルだらけになると、枯れてしまう場合もあります。出てきた穴が真ん丸なためテッポウムシとも呼ばれます。

成虫は、細長い体形で触角が長いものが多く、大きな顎をもち、その切断力が強いので「髪切り虫」あるいは「噛み切り虫」と呼ばれたようです。成虫は樹皮をかじったり葉を食べたりし、種によっては、花粉・花蜜・樹液に集まるものもいます。

黒い地に白い斑点がある**ゴマダラカミキリ**や茶褐色の**クワカミキリ**は、ごく普通に見られます。イチジク・クワ・モミジ・ヤナギなどの生木につきます。真っ黒な体色の**ノコギリカミキリ**は夜行性ですが林内では昼でも目にします。幼虫は樹木の根の部分に入ります。黒っぽい地に黄色の星がある**キボシカミキリ**は中国又は台湾からの外来種で、クワなどの生木を好み、触角が非常に長いのが特徴です。体長 10 ～ 15mm で黄色に黒の模様の**タケトラカミキリ**は枯れたり伐採された竹や竹柵・竹製品に付きます。6 ～ 9mm と非常に小型の**キクスイカミキリ**はヨモギやキク類の茎を食べ、幼虫は茎の中の隋を食べ、根の中で羽化します。

カミキリムシ幼虫の食痕

カミキリムシ成虫の脱出孔

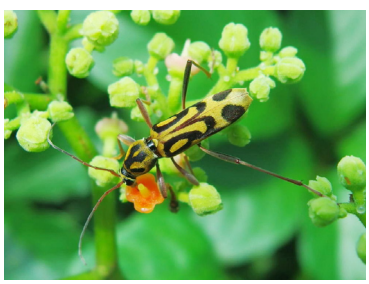
カミキリムシの幼虫

ゴマダラカミキリ

クワカミキリ

ノコギリカミキリ

キボシカミキリ


タケトラカミキリ

キクスイカミキリ

小笠原の旅

宇津木 美恵子

その５　山 - 戦跡

小笠原は戦時中島全体が軍の要塞でした。

今でも日本軍の戦跡だけでなく飛行機などアメリカ軍のものも多く残っています。

ガイドツアーのハートロックコースはかつての軍用道で、戦後放置され、今では自然に戻りかけています。ところどころ、軍用機の残骸やレーダーの台座跡や受信施設設備跡が見られました。また、島全体あちこちに壕があり、高角砲がそのまま残っていて、とても驚きました。

海の中には座礁船が沈没していて、海の生き物のすみかになっていました。沈没船付近をシュノーケリングしたところ、生々しい朽ちた船の姿と、優雅に泳ぐサンゴ礁の魚たちの様子が、とても対照的でした。

このように戦時中の足跡と巡り合うことで、日本の戦争史を改めて考えさせられました。

これも、ヒトという生き物の歴史と生態なのかなと思う次第です。

軍用機

高角砲

沈没船

ロクセンスズメダイと船の残骸

編集後記

◇プロジェクターで進めてきた「いきもの図鑑」がやっと見える形になってきました。メンバーのみんなで、一つ一つ積み上げてきた結果です。秋号では、志木中学校の生徒さんとの活動も、お伝えすることができました。柳瀬川水族館やいろは親水公園での生き物調査に加えて外来生物の調査作業にも力を入れています。　（青木明雄）

エコシティ志木通信
第87号　2017年9月1日
〈発行〉
NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX　048-471-1338（天田眞）
URL　http://kappa-no.net/eco-shiki/
E-mail　eco-shiki@ff.e-mansion.com